

『子どもとの関わり方・叱り方』



園では子ども達と関わる時、自主性・自発性を尊重することを意識しています。

『自主性とは』…自らの判断で周りからの指示を受ける前に積極的に動くことです。

保育園は子どもにとって初めての社会。

集団生活では約束事やルールがあり、これらを守ることで互いに気持ちよく生活が出来ます。

子ども達はこの集団生活の中で、嬉しい・悲しいなど、さまざまな感情も学んでいきます。

他人に迷惑をかけたり理不尽な行動を取った時には、職員から注意されたり叱られて反省することもあります。

(注意:「これは〇〇だからやめようね」 叱る:本人もわかっているわざとやる行為に対して強く伝える)
そこで園で叱るときに意識していることをお伝えしますので、ご家庭でも参考にしてみてください。

叱るべき場面は…

- ケンカをする中で相手にケガをさせるような場合
- 大きなケガや事故など、健康や命に関わる場合
- 人を厳しい言葉で傷つける、人権に関わる場合
- 社会のルールやマナーを無視している場合

叱るときに気をつけたいこと…

• 感情的にならない

子どものことを思い良い方向へ導くため、大人の価値基準や感情だけで叱りません。

• 怒鳴らない

怒鳴ったり大きな声を出して伝えても怯えるだけで、何がいけないのかという本質は理解していません。

• 無理に謝らせない

子ども達のケンカを仲裁した際、「ごめんねは？」と言うこともあるかもしれませんが、これは無理に謝らせている状況です。

子ども自身が「なぜいけないのか」「どうするべきなのか」を考えることが大切なので、すぐに「ごめんね」が出てこなくても焦らず、何が問題なのかを一緒に考えてあげるといいです。
年齢によって、伝え方や集中していられる時間が違います。

小さい子は言葉を多くかけても『なぜ怒られているのか』忘れてしまいます。

大切なのは、叱る前にまず「なぜそのような言動をとったのか」と理由を聞くといいですね。

そして「なぜ良くないのか」の結論だけ言うのではなく、理由も話します。

「どうしたらいいと思うか？」を、自分で、或いは一緒に考える経験を重ねることで、少しずつ理解して、次に繋がっていきます。

叱った後は「出来たね」など認めることも忘れずに★

(宮本)

